

令和4年9月吉日

保護者のみなさまへ

河内長野市立加賀田中学校
校長 清水 貴浩

令和4年度 全国学力・学習状況調査の結果について

清涼の候、保護者のみなさま方にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。
平素は、本校の教育活動の推進にご理解とご支援を賜り、厚くお礼を申し上げます。

2学期に入りまして最大行事の一つである10月1日の体育大会に向けて、生徒のみなさんは熱心に練習に取り組んでいます。どうかみなさんの頑張りを励ましていただければ幸いです。

さて、本年4月19日（火）に3年生で実施されました「全国学力・学習状況調査」について、調査の基本的な考え方や本校の結果概要、調査結果の活用等をお知らせいたします。昨年度は、国語、数学の2教科でしたが、今年度は理科が加わって計3教科となりました。

本校としましては、今回の調査結果をもとにして学校教育活動のベースとなる授業の充実や豊かな人間関係の構築をめざし、生徒のみなさんのさらなる学力向上に向けて取り組んでまいります。ご家庭におかれましても、一層のご理解とご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

記

1、《 調査に関する学校の基本的な考え方 》

本調査について、文部科学省の目的としては、

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 - 学校における児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
 - そのような取組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- となっています。

このことをふまえて、本校では次に挙げるような成果が期待されると考えております。

- ①子どもたちは、それぞれの学習の到達状況を知ることによって学習意欲を高め、自ら目標を持ち、今後の学習の改善や励みとする。
- ②学校は、自校の状況を詳細に分析することで、子どもたちの確かな学力及び教員の指導力・授業力の向上につなげる。

2、《 調査結果の取り扱い 》

- ①本調査により測定できるのは、学力の限られた一部分であり、学校における教育活動の一つの側面です。すべての学力を捉えられているものではないことに十分留意して取り扱うことが必要だと考えています。
- ②調査結果の提供により「子どもにどのような力がついてきたのか。」「学校がどのような教育を進めているのか。」「子どもの学習状況や生活習慣等にどのような良い点・課題があるのか。」など、一人ひとりの学力向上の取組み改善とともに、学校における課題を整理して、課題改善する取組みを進めていきます。

3、《 調査結果についてのお願い 》

- ①学習への意欲は、子どもの自尊感情と大きな関係があります。友だちや兄弟姉妹と比較することは自尊感情を傷つけ、意欲を低下させる場合があります。子ども個人の成長を認め、さらなる課題を意識させることで、学習意欲を高められるようご対応をお願いします。
- ②各家庭におかれましても、今回の結果を子どもたちの基本的な生活習慣の見直しや今後の家庭学習の進め方等の参考にさせていただきますようよろしくお願いいたします。
- ③調査結果のうち、正答率については、調査に参加した子ども並びに保護者の方にのみ提供しているものです。学校の各教科の平均正答率などを他と比較することのないように、十分にご留意いただきますようお願いいたします。

令和4年度 全国学力・学習状況調査の分析 河内長野市立加賀田中学校

学力調査の概要

国語

設問番号	学校の平均正答率
1一	80.2%
1二	64.8%
1三	57.1%
2一	87.9%
2二①	81.3%
2二②	90.1%
2三	56.0%
3一	47.3%
3二	93.4%
3三	60.4%
3四	83.5%
4一	44.0%
4二	93.4%
4三	87.9%

概要

本校の全体の正答率が73%で、府67%、全国69%に対して上回っている。設問別にみても、ほとんどの問題で平均を上回っているが、一部下回っている問題がある。また、記述を含む設問においての無回答率が全国・府と比べて低い値となっている。

特に成果が見られた問題例

概要にある通り、1一、1三、2三、3四など、設問の意図を理解し、自分なりの言葉で説明を書く、思考・判断・表現を問われる記述問題において、無回答がほぼなく、いずれも府や全国よりも高い正答率となっている。

特に課題が見られた問題例

正答率が大きく下回っているものはほとんどないが、3一表現技法や、2二①の漢字を書くことなどの理解が平均以下であり、知識を問うような問題に対応する基礎・基本が定着していない。

数学

設問番号	学校の平均正答率
1	58.7%
2	79.3%
3	47.8%
4	43.5%
5	82.6%
6(1)	78.3%
6(2)	46.7%
6(3)	39.1%
7(1)	38.0%
7(2)	38.0%
8(1)	64.1%
8(2)	33.7%
9(1)	80.4%
9(2)	8.7%

概要

本校の正答率は53%で、全国51.4%・府51%より高い。無回答率も低めである。単元別には、「知識・技能」は強く、逆に「思考・判断・表現」は弱い。また単元別では、「数と式」「図形」「関数」の正答率が高く「データの活用」では正答率が低かった。

特に成果が見られた問題例

1 2計算などの知識・技能を問う問題には正答率も高く、しっかりと定着出来ている傾向にある。8表・グラフからの読み取りも正答率が高い。また9(1)三角形の合同条件は全体的にしっかりと覚えているのが見られる。

特に課題が見られた問題例

7一・二 箱ひげ図・ヒストグラムでは、正答率が低く、余り定着がされていない傾向にある。9証明は理解がかなり低く、無回答率も、全国や府よりかは低いものの、それでも3割以上あった。また全体的に思考・判断・表現に関する問題に弱く、また記述式の問題にも弱いというのが見られる。

理科

設問番号	学校の平均正答率
① (1)	45.7%
① (2)	79.3%
② (1)	50.0%
② (2)	44.6%
② (3)	27.2%
③ (1)	85.9%
③ (2)	60.9%
③ (3)	29.3%
④ (1)	71.7%
④ (2)	60.9%
⑤ (1)	7.6%
⑤ (2)	45.7%
⑤ (3)	47.8%
⑥ (1)	45.7%
⑥ (2)	55.4%
⑥ (3)	42.4%
⑦ (1)	52.2%
⑦ (2)	60.9%
⑧ (1)	62.0%
⑧ (2)	55.4%
⑧ (3)	37.0%

概要

本校の全体の正答率は51%で、府47%や全国49.3%を上回っていた。観点別では「知識・技能」「思考・判断・表現」のどちらの正答率も府や全国を上回っていた。分野別では「粒子」「生命」の正答率が高く、「エネルギー」「地球」の正答率は低かった。

特に成果が見られた問題例

③(1)～(3) ⑦(1)(2)の「粒子」を柱とする領域の正答率が、府や全国に比べ大幅に高かった。知識・技能が定着しており、それらを活用して思考・判断・表現する力も高かった。思考・判断・表現を問われる記述問題において無回答率が、府や全国よりも低く、また、正答率は府をすべて上回っていた。

特に課題が見られた問題例

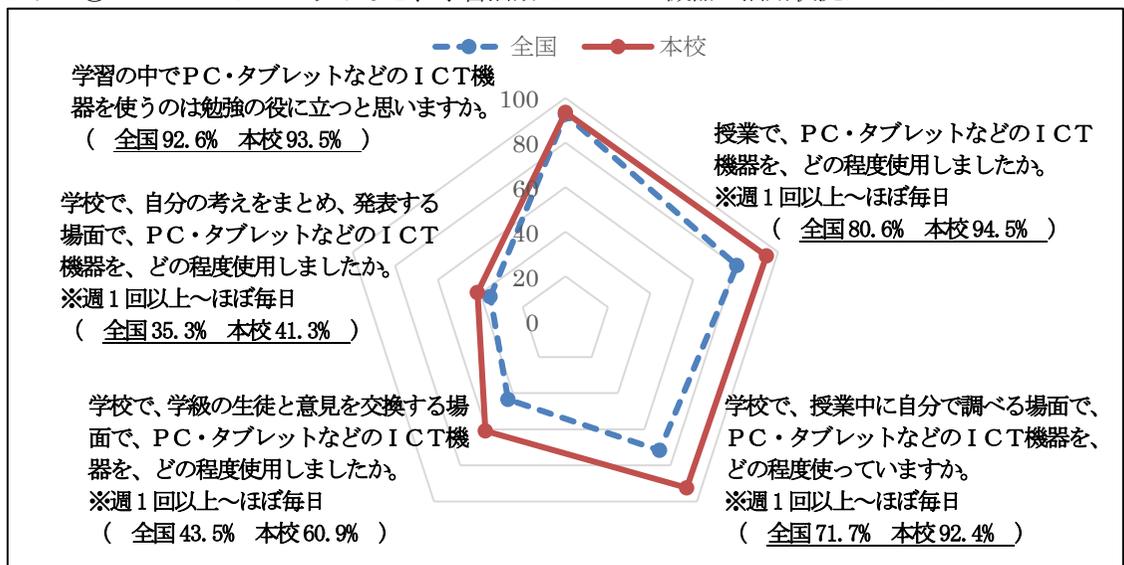
⑤(1)の正答率が府や全国に比べ大幅に低く、力の働きに関する知識及び技能を活用して説明するところに課題が見られた。

⑤(3)の記述の無回答率は府や全国よりも低いものの、無回答率そのものは高かった。実験の計画を検討し、改善するところに課題が見られた。

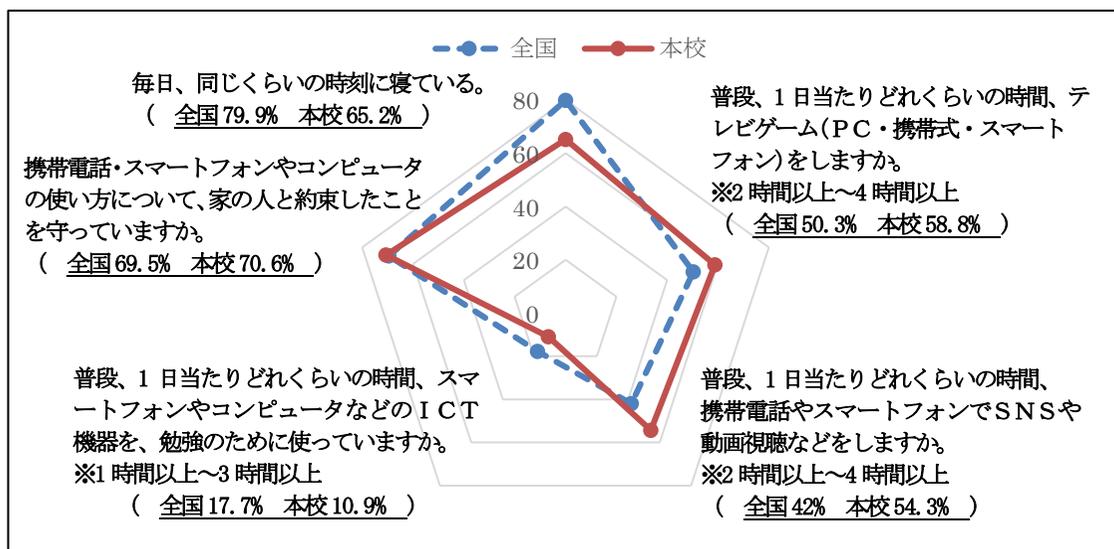
④(1) ⑧(3)では、資料をもとに共通点と相違点を分析して解釈したり、説明したりするところに課題が見られた。

学習状況調査の概要

グラフ① PC・タブレットなど、学習活動でのICT機器の活用状況について



グラフ② 携帯電話やスマートフォン、コンピュータなどの使用状況について



概要

府・全国の回答状況と比較すると、自分自身の生活や他者との関わり合いにおいて、どの項目においても全体的にみると肯定的な回答が多くなっている。人の役に立つ人間になりたいと思う(96.7%)、人が困っているときは、進んで助けている(90.2%)、いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う(100%)など、非常に高い水準となっている。

また、授業中に課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた(80.4%)、発表には資料や文章、話の組み立てなどを工夫した(79.4%)、授業は自分にあった教え方、教材、学習時間となっていた(80.4%)と、学習に関する基本的な質問項目においても、府・全国と比べ肯定的な回答が多い。言語活動の基礎となる読書活動についても、読書が好き(76.1%)、30分以上読書する(34.7%)と高い値となっている。

一方で、家庭学習や習い事等に割く時間は全国平均と比べても同等以上にも関わらず、同じくらいの時刻に寝ている(65.2%)、一日当たりのスマートフォンやテレビゲームなどに関わる時間(54.3%)は全国平均よりも高いことから、生活リズムの乱れが推察される。

教職員との関わりについては、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる(60.7%)とある一方で、先生はあなたのよいところを認めてくれる(90.2%)となっている。

特に成果が見られたアンケート項目例

学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つという質問項目に対し、肯定的な回答が全国92.6%、本校93.5%となっている。全国的に見てもICT機器の使用に関する生徒の意識が非常に高い中、上のグラフ①が示す通り、本校はいずれの項目においても全国及び府の数値を大きく上回っている。そうした結果が、学習に関する基本的な質問項目における肯定的な回答に影響を与えている可能性がある。

特に課題が見られたアンケート項目例

グラフ②にある通り、全国と比べると1日当たり2時間以上スマートフォンなどでSNSや動画視聴する時間が全国42%、本校54.3%。また、ゲームを2時間以上する回答に関しても全国50.3%、本校58.8%といずれもスマートフォン等のICT機器に触れる時間が長いことが示されている。使用に関しての約束事については、守っているとの肯定的な回答は全国よりも高い(全国69.5%、本校70.6%)。ただし、だいたい守っているとの回答が多く(全国37.3%、本校46.7%)、きちんと守っているという回答は全国と比べると少ない(全国32.2%、本校23.9%)。

調査結果を受けて

学校が重点的に取り組んでいくこと

今年度は、本校の3教科の平均正答率が全国や大阪府を上回っていることから、今までの取組みを継続するとともに、さらに充実したものとなるよう工夫、改善していきたいと考えています。

①国語科では、引き続き授業開始時の漢字学習を行います。今回の調査では、漢字の書き取りが全国平均以下であったため、改めて漢字学習に力を入れて取り組みます。思考、判断、表現を問う記述問題の正答率は、全国平均を上回っていましたが、今後も自分なりの言葉で説明や文章を書く問題を定期テスト等に取り入れ、問題に慣れる取組みを行います。また、活字離れを防ぐために新聞のコラムや読書のワークシート等で生きた教材を取り入れ、社会に目を向けて自分なりの考えを持てる力を育成していきます。

②数学科では、知識、技能を問う問題の正答率が高く、今後も基礎力、計算力のさらなる向上をめざして毎回の授業でドリル学習を実施するとともに、定期的に小テストを実施して、基礎・基本の定着を図ります。また、表やグラフの読み取りも正答率が高く、他の教科でも応用できるよう今後も教材として取り入れていきます。一方で、証明や記述式の問題の正答率は全国よりも低く、数学的な見方・考え方を強化するため、説明や証明の必要な問題を積極的に取り入れ、十分に時間をかけてしっかりと文章化できるように取り組みます。

③理科については知識、技能および思考、判断、表現を問うどちらの問題も正答率が全国平均を上回っていました。分野別では、力のはたらきに関するエネルギーや岩石や大地の変動に関する地球の分野での正答率が低かったため、今後はそれらの分野の概念の理解を深められるような指導を行っていきます。また、実験計画を検討、改善するところや実験結果の情報をもとに関連付けや比較、分析したりするところに課題が見られたので、今後も時間をかけて実験を計画、準備し、生徒が主体的に取り組めるよう工夫、改善を行います。

④全教科での取り組み

- ・アクティブラーニングの観点を生かしたペア学習やグループワーク等の活動を通じて、自ら学ぶ、学べる学習集団づくりを行っていきます。
- ・授業における「めあての提示」や「ふりかえり」を常時行うなど、ユニバーサルデザインの観点による授業を行います
- ・目的を明確にして、教科共通の観点で相互見学授業・提案授業・研究協議等を行います。また、教科横断的な授業の在り方についても研究していきます。
- ・目的に応じて、自分の考えを書く場面を各授業の中で設定します。
- ・読む、書く、聞く、発表する等の各活動場面を明確に示すことによって授業にメリハリをつけ、集中力を持続させる授業実践を行います。
- ・1人1台パソコンを有効活用し、日々の学習効果を高めるとともに、オンライン学習のさらなる充実に向けて、知識、技能を身につけていきます。
- ・学ぶ楽しさを実感できる教材等を工夫して、問題解決学習や体験的な学習を充実させていきます。
- ・学校、家庭において基本的な生活習慣とともに、学習習慣の定着と学習意欲の向上を図ります。

生徒のみなさんにしっかり取り組んでほしいこと

①日頃から読書に親しみ、文章や活字に触れる機会をたくさん作ってください。文章に触れる機会が増えれば、文章の書き方や漢字を自然に覚えることができます。また、読んでいる文章が長文で意味が不明な時は、何回も読み直すことにより内容の理解度が少しずつ高まります。

- ②授業日の宿題は、その日のうちに取り組み、分からない内容をため込んで後でまとめてやるようなことのないようにしてください。せっかく課題解決に成功しても、時間の経過によっては、頭から離れてしまうことが多々あります。
- ③自分の考えに自信を持って相手に伝えられるよう、人の意見をしっかり聞き、適切にメモを取って言葉や文章の整理をするなど、コミュニケーションを高める工夫をつねに行ってください。
- ④家庭や学校での学習に意欲的に取り組みましょう。特に、自分で課題を見つけ学習する習慣を身につけるとともに、世の中の出来事やさまざまな問題に自分なりの考えを持つようにしてください。
- ⑤自分の将来に興味を持って取り組んでいきましょう。将来について考え、それに向けてどのような行動が求められるかを考えることで、学習での自主性や、課題を乗り越える原動力が身につけてきます。

保護者のみなさまに協力してほしいこと

- ①家庭で本を読む習慣を是非つけてください。できるだけ多くの活字に触れ、それを維持できるような環境を作ってください。文章を読み取る力は、今後、すべての教科・領域で必要不可欠なものとなるでしょう。
- ②規則正しい生活ができるよう起床、朝食、登校、夕食、就寝やテレビ等の時間管理など家庭での約束事を設け、しっかりとした生活の柱を確立させてください。特にインターネットやゲームのやりすぎによる睡眠不足は、学校生活のみならず日常生活にまで大きく影響します。また、スマートフォンや携帯電話の使用についてもしっかり話し合ってください。
- ③家庭において学校の様子や友達のこと、将来のことなどの会話を大いに増やし、家庭内のコミュニケーションの充実を努めてください。また、地域・社会に関心を持つために、行事やボランティア活動にはできるだけたくさんの参加を促してください。
- ④お子さまが主体的に学び、人とのコミュニケーションを上手にとりながら豊かな人間関係を築き、ものごとに対して深く考えられる大人に成長するために、今後とも本校の教育に対してご理解とご協力をよろしくお願いいたします。